



アフリカ豚熱、口蹄疫等の防疫対策の徹底について

中国や東アジア地域ではアフリカ豚熱や口蹄疫が継続発生(牛・豚)し、国内では豚熱や豚流行性下痢(豚)が確認されています。

昨今の新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、人・物の移動が減少している状況にありますが、家畜伝染病の侵入防止のため、引き続き、防疫対策を徹底する必要があります。

畜産関係者は本病発生地域への**渡航は自粛**するとともに、以下の点に特に留意して、**飼養衛生管理基準の遵守を徹底**してください。

1 衛生管理区域への病原体持ち込み防止の徹底

- ・関係者以外を衛生管理区域へ立ち入らせない
- ・衛生管理区域へ不要な物品を持ち込まない
- ・衛生管理区域や畜舎へ立ち入る場合は、農場従業員も含め、手指の消毒、専用の衣類と長靴の着用などの対策を行う
- ・野生動物の侵入防止対策として、防護柵、防鳥ネット等を設置する

2 早期発見及び早期通報の徹底

- ・毎日、飼養家畜の健康観察を入念に行う
- ・豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫の症状を呈している家畜を発見した場合は速やかに家畜保健衛生所に通報する



CSF・ASFの侵入防止対策を徹底しましょう!

2018年9月、日本において26年振りにCSFが発生しました。近隣国では、CSF及びASFの発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いています。

衛生管理を徹底しましょう!



関係者以外の農場への立入を禁止

農場(畜舎)に出入りする際には、消毒を実施

飼料に生肉を含む又は含む可能性がある場合は、十分に加熱処理

CSF

2018年9月、11月、12月、2019年1月 日本で発生

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疫病です!
発熱、食欲不振、元気がなくなり、便秘に繼ぐ下痢、呼吸障害等
異状を発見したら直ちに通報しましょう!



写真出典: 岐阜県 重症例は後脳麻痺・運動失調・四肢の激しい痙攣などの神経症状、皮下出血による紫斑(耳翼、尾、腹部、内股部)を呈し死亡。

ASF

2018年8月以降 中国で発生継続

病状は多岐に渡り、甚急性では突然死亡、急性では発熱が見られます。
異状を発見したら直ちに通報しましょう!



病状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性の症状を示す。甚急性では突然死亡、急性では発熱(40~42℃)、皮下出血、脾臓の腫大、粘血症、チアノーゼ等を呈し、死亡率は100%に近い。

写真出典: 国立研究開発法人農業食品産業界技術総合研究所 畜衛生学研究室

詳細情報はこちら(農林水産省HP)

CSFについて

ASFについて



予防対策の重要ポイント

【衛生管理区域】



①人・物・車両によるウイルスの持込み防止

- ・衛生管理区域、豚舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底
- ・衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底
- ・人・物の出入りの記録
- ・飼料に肉を含み、又は含む可能性があるときは、あらかじめ摂氏70度・30分間以上又は摂氏80度・3分間以上の加熱処理を徹底

②野生動物対策

- ・飼料保管場所等へのねずみ等の野生動物の排せつ物等の混入防止
- ・豚舎周囲の清掃、整理・整頓
- ・死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないよう適切に保管